

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成25年4月4日(2013.4.4)

【公表番号】特表2012-517304(P2012-517304A)

【公表日】平成24年8月2日(2012.8.2)

【年通号数】公開・登録公報2012-030

【出願番号】特願2011-549396(P2011-549396)

【国際特許分類】

A 6 3 B 23/00 (2006.01)

A 6 1 H 15/00 (2006.01)

【F I】

A 6 3 B 23/00 Z

A 6 1 H 15/00 3 1 0 D

【手続補正書】

【提出日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも2のサブ運動ローラユニットを具える運動ローラにおいて、

前記サブ運動ローラユニットは互いに連結されて単一の運動ローラを構成するとともに、分離可能であり少なくとも1のサブ運動ローラユニットが個別の運動ローラとして利用可能であることを特徴とする運動ローラ。

【請求項2】

請求項1の運動ローラにおいて、隣接するサブ運動ローラユニットが、端部と端部で接合することを特徴とする運動ローラ。

【請求項3】

請求項1または2の運動ローラにおいて、少なくとも1のサブ運動ローラユニットが管状、円筒状または棒状であることを特徴とする運動ローラ。

【請求項4】

請求項1乃至3のいずれかの運動ローラにおいて、少なくとも1のサブ運動ローラユニットが、ユニット式(unitary)であることを特徴とする運動ローラ。

【請求項5】

請求項1乃至4のいずれかの運動ローラにおいて、少なくとも1のサブ運動ローラユニットが、長手方向に延在する内部通路を有する第1の管状または円筒状の部品と、前記通路に嵌合する第2の部品とを具えることを特徴とする運動ローラ。

【請求項6】

請求項5の運動ローラにおいて、前記第2の部品は棒状、管状または円筒状であることを特徴とする運動ローラ。

【請求項7】

請求項5または6の運動ローラにおいて、前記第2の部品は、前記通路に嵌合する第2のサブ運動ローラユニットであることを特徴とする運動ローラ。

【請求項8】

請求項5乃至7のいずれかの運動ローラにおいて、前記第2の部品は管状または円筒状であり、当該第2の部品の中に第3の部品が配置されることを特徴とする運動ローラ。

**【請求項 9】**

請求項 5 乃至 8 のいずれかの運動ローラにおいて、前記通路は前記第 1 のサブ運動ローラユニットの長さに延在することを特徴とする運動ローラ。

**【請求項 10】**

請求項 1 乃至 9 のいずれかの運動ローラにおいて、少なくとも 2 のサブユニットが互いに端部同士で連結され、前記サブユニットの隣接する端部の一方または双方に連結手段が設けられていることを特徴とする運動ローラ。

**【請求項 11】**

請求項 10 の運動ローラにおいて、前記連結手段は、フックアンドループファスナ材料を具えることを特徴とする運動ローラ。

**【請求項 12】**

請求項 10 の運動ローラにおいて、前記連結手段は、前記 2 のサブユニットの隣接する端部にそれぞれ穴と、当該穴の中に収容された接合物とを具えることを特徴とする運動ローラ。

**【請求項 13】**

請求項 12 の運動ローラにおいて、前記接合物が、サブ運動ローラユニットであることを特徴とする運動ローラ。

**【請求項 14】**

請求項 1 乃至 13 のいずれかの運動ローラにおいて、少なくとも 1 のサブ運動ローラユニットが、発泡材料で構成されていることを特徴とする運動ローラ。